



園芸作物栽培についての

これからの対策

Q&A

◎2月の気象

気象庁は昨年12月にラニーニャ現象が発生していると発表しています。春にかけて徐々に終息との見通しです。ラニーニャが発生すると西高東低の気圧配置が強まり降雪量は多くなるとされています。長期予報では気温やや低め、降雨(雪)量やや多めとなっていますので春作のスタートが遅れるなど影響が出るかもしれません。

◎当面の圃場管理

昨年暮れから降水量が多く圃場は非常にぬかるんでいます。積雪下ではさらに排水が効かなくなっています。昨年は青枯れ病や軟腐病、ネコフ病など圃場の停滞水が大きな要因で広がる病害が多発しました。排水溝が見えてきたら表面排水の徹底を図りましょう。

◎越冬野菜の手入れ

今年の越冬野菜は天候不良の影響を大きく受けています。日照不足で光合成量が少なく、多雨により土壌水分が高根の発達が遅れています。しかし2月はまだまだ寒いので追肥も効果が上がりません。とにもかくにも圃場排水促進に努めることが肝要です。中旬を過ぎて日射が強くなってきたら追肥・中耕・土寄せを行ってください。また、枯れ葉、腐り葉は病害虫の発生減となるので天気の良い日に掻きとっておきましょう。豆類やネギは凍害回避と株元保護のため施肥後、充分土寄せをしておきましょう。

◎バレイシヨの準備

3月下旬に入るとジャガイモの植付けが始まりますが、芽揃いを良くするための浴光催芽は2月中旬から始まります。これまでも情報として記載しておりますので簡単に紹介すると、日当たりの良い屋内にジャガイモを一段若しくは2段に平に並べます。基本は手を切断して伏せますが、萎びてしまう場合が少なからずあり、かえって芽の勢いが弱くなりがちですので、丸いまま行った方が無難です。切断は植付けから7日前に行えば良いでしょう。



屋内の日当たりの良い所に置く

追肥の施用目安 (1a当たり)

- タマネギ…消雪後6kg、4月中旬4kg、
- ニンニク…消雪後8kg
- エンドウ…消雪後2kg、開花初め2kg、収穫初め2kg
- ソラマメ…消雪後5kg、5月上旬2kg
- イチゴ…消雪後2kg、開花初め2kg、収穫初め1kg

◎タマネギの手入れ

消雪後から追肥を行います。低温の時期なので速効性のそさい3号などを使います。流しやすいい肥料なので少量ずつこまめに与えましょう。マルチがしてある場合は300〜500倍に薄めて与えるか、降雨直前にマルチの上からバラ撒きをしておいてもよいでしょう。ただし、肥料の粒がタマネギの株元に集まらないように注意してください。

大門 優  
園芸アドバイザー

お問合せ先  
東部ふれあいセンター内営農生活課  
TEL.51-8004  
TEL.070-1296-1499



マルチ上のそさい3号バラ撒き

◎春作の準備にあたって

- まだまだ雪の季節ですが、今年のおおまかな作付計画を考える時期です。近年土壌病害虫の発生が多くなっていますので連作にならないよう工夫することです。圃場が小さいなど連作が避けられない場合は以下の対策も考えましょう。
1. 無理な作型とならないよう栽培適期を守り、野菜が健全に生育する環境を整えてやりましょう。
  2. 圃場の耕起は水分がある程度抜けてからにしましょう。水分が高いと碎土が上手くゆかず生育不良の要因となります。また、ネコフ病など土壌病害の発生した場所の耕起後は、機械に付着した土をきれいに落とし被害が拡大しないようにしましょう。
  3. 土壌に起因する病害虫予防措置としての土壌処理剤を施用しましょう。
  4. 肥料のやり過ぎはかえって根を傷めます。腹八分目の感覚で施肥しましょう。
  5. 特定の病害虫に侵されにくい品種も開発されているのでこうした品種を選定しましょう。
  6. トマトなど果菜類では苗価格は高くとも接ぎ木苗を購入しましょう。
  7. 特定の病害軽減のためのバンカープランツの利用も考えましょう。
- なお、連作障害軽減の活力剤などが販売されていますが、一般的に安くはありません。連作障害の要因は様々あります。活力剤の効果については是非もありませんが、有効発現の安定性については公的機関の証明は始とされていないのが現状です。

☆抵抗性野菜について

キャベツ、ダイコンなどのアブラナ科野菜にはCROR○○やYR○○○○などの表記があります。CRはネコフ病抵抗性、YRは萎黄病抵抗性の略称です。ただし、丹南管内では萎黄病は殆ど発生していません。また、トマトではTY(黄化葉巻病抵抗性)やCR(葉力)抵抗性、Cの続く数字は色々と菌の系統を表す。ホウレンソウではROR(ネコフ病抵抗性)に続く数字は色々と菌の系統を表すなどの表記があります。種袋の注意書きにはこうした記載がありますので購入にあたっては良く読むようにしましょう。なお、「抵抗性」という言い方と「耐病性」という言い方がありますが、抵抗性の方が強い強力です。



☆主な土壌処理農薬

ハクサイなどアブラナ科野菜のネコフ病、ジャガイモのソウカ病にはネビジン粉剤、フロンサイド粉剤、オラルク粉剤など。ナス科、ウリ科野菜のネコフ病にはネマトリン粒剤、ネマトリンエース粒剤、ネモール乳剤、ガスタード微粒剤など。ネキリムシにはタイアシノン粒剤、フォース粒剤、カルホス粉剤などを肥料と同時に土壌混和処理します。なお、各野菜に対する農薬の使用基準は必ず確認してください。

☆バンカープランツ

野菜栽培では近くに植える野菜の組み合わせで、お互いに良い影響を与えあう共生関係を「バンカープランツ」といい、相方の野菜の病害虫被害を軽減する作物をバンカープランツと言います。組み合わせは多岐にわたるのでここでは書ききれませんが丹南で被害が広がっているネコフ病に対しては、おとり大根やエンバクなどがあります。土壌センチュウに対するマリーゴールド植付けと鋤き込みなどはよく知られています。ウリ類のつる枯れ病に対する長ネギの寄せ植え、ナスなどのアブラムシに対するソルゴーの列植え、ナス科の青枯れ病に対するいぶし菜(辛子菜)などもあります。これらの効果については経験的なものによるものが大きく、農薬による防除効果を凌ぐものではありません。



スイカとネギの混植。ネギ類は多くの野菜と相性が良い。

☆やり過ぎに注意すべき肥料

注意すべきは速効性の化成肥料で、そさい3号や5号、アグリフリンシユや尿素・硫酸で硝酸態窒素やアンモニウム態窒素を多く含む肥料は過剰施用すると根や莖葉が傷んだりしますので少量ずつ分施しましょう。

◎作付計画 定植適期について

安定した栽培を行うためには、適期播種・適期定植は大切なポイントです。適期より早く、若しくは遅く播種・定植したい場合は保温対策や遮光など資材を駆使して野菜にとって適切な環境を整える必要があります。こうした知識・技術がない場合は栽培の基本に忠実であるべきです。ホームセンターの苗売り出しに誘われてはいけません。

◎春野菜の播種

春野菜の播種はサクラの咲く頃が基本ですが、エンドウやソラマメ、場合によってはタマネギなど越冬野菜を冬の間播種し3月中旬に植えつけることも可能です。ただし、収穫物は前年に播種定植した物に比べて収量や大きさは劣ります。しかし欠株が出ないので試してみる価値はあります。

◎施設野菜

3月に入るとトマトやキュウリの定植が始まりますが、近年、ネコフセンチュウや青枯病抑制対策としてクロピクテプやガスタード微粒剤などで土壌消毒することが増えてきました。こうした作業を計画している場合はホウレンソウなど軟弱野菜の始末を2月中旬に終えておく必要があります。なお、ホウレンソウではクナガコナダニの被害に注意しましょう。また、ハウス内の雑草は害虫の活動期に入る前にきれいに除去しておきましょう。



トンネル被覆された春蒔きソラマメ

◎果樹の剪定

果樹類はお彼岸までには剪定を終えておきましょう。積雪があるときは普段手の届かない所まで容易に枝切りできるのので1月下旬から2月はじめがタイミングとしては良いかもしれません。